

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
国語総合	1	普通 コース	4	国語科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
高等学校 標準 国語総合	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	様々な文章に親しみ、読解力や表現力を養う。 漢字の読み書き、ことば及び古典鑑賞の基礎知識を身につける。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	漢字の読み書き、古典の基礎知識、読解力、表現力を評価する。	授業に取り組む姿勢、授業中の発表、提出物、確認テスト等で評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四	随想(一)「スイッチをOFFにすることから始める」 林 ナツミ
	五	「世界は謎に満ちている」 手塚 治虫 【中間考査】 小説(一)「羅生門」 芥川 龍之介
	六	古文に親しむ「兄のそら寝」(宇治拾遺物語) 【期末考査】
第2学期	七	評論(一)「水の東西」 山崎 正和
	八	漢文入門「訓読に親しむ」(一)(二) 古文に親しむ「絵仏師良秀」(宇治拾遺物語)
	九	【中間考査】
	十	小説(二)「卒業ホームラン」 重松 清 説話と随筆「高名の木登り」(徒然草)
	十一	【期末考査】
第3学期	十二	説話と随筆「ある人、弓射ることを習ふに」(徒然草)
	一	評論(三)「イースター島になぜ森がないのか」 鷲谷いづみ
	二	短歌と俳句「清水へ」「手毬歌」 【期末考査】
	三	まとめ

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
国語総合	1	進学 コース	5	国語科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
高等学校 標準国語総合 改訂版	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの文章に触れることで、言語文化に対する関心を高め、豊かな社会生活を送る態度を身に付ける。 ・古典を学習する上での基礎的、基本的事項を身につける。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字・語句の習得 ・古典の基礎知識の習得 ・内容理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物(宿題、自習課題等) ・ノートを取り方 ・小テスト ・授業態度
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期		随想(一) 世界は謎に満ちている 小説(一) 羅生門 【中間考査】 古文入門 宇治拾遺物語「児のそら寝」 評論(一) 水の東西 古文に親しむ 竹取物語「なよ竹のかぐや姫」 【期末考査】
		評論(二) コミュニケーションは創造的に 漢文入門 故事成語 五十歩百歩 【中間考査】 詩 道程 I was born 小説(三) 夢十夜 古文随筆 徒然草 【期末考査】
第3学期		評論(三) イースター島になぜ森がないのか 古文日記 土佐日記 漢詩 唐詩 【期末考査】 漢文史伝 鶏口牛後

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
国語総合	1	特別進学 コース	5	国語科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
高等学校 標準国語総合 改訂版	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	1. 現代文、古文、漢文の読解を通して、1年生として必要な国語力を身につけるとともに、言語文化に対する関心を高め、豊かな社会生活を送る態度を養う。 2. 古典を学習する上での基礎的、基本的事項を身につける。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	漢字の読み書き、語句の習得、古典の基礎知識の理解、読解力、表現力を評価する。	学習態度、出席状況、小テストの得点、提出物により評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四・五	〈現〉随想『世界は謎に満ちている』手塚 治虫 【中間考査】
	五・六	〈古〉「古文入門」『宇治拾遺物語』(歴史的仮名遣い) 〈古〉『沙石集』(品詞、動詞の活用) 〈漢〉「漢文入門」 【期末考査】
第2学期	七・九	〈漢〉「故事成語」 〈古〉古典文法(形容詞・形容動詞の活用) 〈現〉評論『水の東西』山崎正和 【中間考査】
	十・十一	〈古〉『徒然草』(助動詞の活用) 〈現〉小説『羅生門』芥川龍之介 〈漢〉『十八史略』 【期末考査】
第3学期	十二・一	〈現〉評論(二)『コミュニケーションは創造的に』伊藤進 〈古〉『伊勢物語』(助詞の学習) 〈古〉「万葉・古今・新古今」 〈漢〉「漢詩の鑑賞」(漢詩の決まり)
	二・三	【期末考査】 和歌の修辞法

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
現代社会	1	普通 コース	2	地歴・公民科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
現代社会	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	現代社会に対する関心を高め、諸問題について様々な立場を踏まえて主体的に学習できる能力を養うとともに、基礎的な知識の定着を図る。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	学習した概念や理論を理解し、その知識が定着しているかどうかを定期考査の得点により評価する。	出席状況、授業態度、提出物などで判断する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ・ 5	第1部 わたしたちの生きる社会 ①地球環境と資源・エネルギー ②科学技術の発達と生命 ③情報化の進展と生活 【中間考査】
	5 ・ 6	第2章 日本国憲法と民主政治 1節 民主政治とは 2節 日本国憲法の基本原理 【期末考査】
第2学期	7 ・ 9	3節 日本の政治機構 4節 現代政治の特質と課題 第3章 個人の尊重と法の支配 1節 個人の尊重と法の支配 【中間考査】
	10 ・ 11	第4章 現代の経済と国民福祉 1節 経済のしくみ 2節 変化する日本経済 【期末考査】
第3学期	1 2 ・ 1	3節 豊かな生活の実現 第5章 国際社会と人類の課題 1節 国際経済のしくみと動向 2節 国際政治のしくみと動向
	2	3節 国際社会の現状と課題 【期末考査】

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
現代社会	1	進学 コース	2	地歴公民科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
現代社会	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<p>1. 現代社会の諸問題について、社会・政治・経済など様々な観点から追究し、時事的な問題と関連させながら、現代社会に対する興味・関心を高める。</p> <p>2. 現代社会の諸問題と自己との関わりに注目し、いかに生きるかを主体的に考えさせる</p>
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	<p>1学期は中間・期末、2学期は中間・期末考査、3学期は期末考査のみを実施する。</p> <p>教科書の内容を基本に、授業で配布したプリントや授業中の補足説明などを試験範囲とし、基本的な学力の養成に配慮する。</p>	<p>出席状況、提出物(ノートやプリントなど)、授業態度などを総合的に評価する。</p>
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	<p>授業ガイダンス</p> <p>調べよう・考えよう</p> <p>・地球環境とわたしたちの未来 ・資源・エネルギー問題とわたしたちの生き方</p>
	5	<p>第2章 現代の経済と国民福祉</p> <p>1. 経済のしくみ</p> <p>2. 政府の経済的役割</p> <p>3. 変化する日本経済</p>
	6	<p>第1学期期末考査</p>
	7	<p>4. 豊かな生活の実現</p> <p>第3章 日本国憲法と民主政治</p>
第2学期	8	<p>1. 民主政治とは</p> <p>第2学期中間考査</p>
	9	<p>2. 日本国憲法と基本的人権</p> <p>3. 国会・内閣・裁判所</p> <p>4. 政治参加と民主政治</p>
	10	<p>第2学期期末考査</p>
	11	<p>第2学期期末考査</p>
第3学期	1	<p>第4章 国際社会と人類の課題</p> <p>1. 国境を越える経済</p> <p>2. ボーダレス化の中の地域</p>
	2	<p>3. 国際社会の成立と戦後の動き</p> <p>4. 国際社会の課題</p>
	3	<p>第3学期期末考査</p>
	3	<p>第3学期期末考査</p>

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
政治・経済	1	特進 コース	2	公民

使 用 教 科 書 等	出 版 社
高等学校 政治・経済	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	民主主義の本質に関する理解を深めさせるとともに、現代における政治、経済、国際関係などについての客観的な理解をめざす。また、それらに関する諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を持つ良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事項や、その本質、特質及び動向を捉える基本的な概念を身につけているかどうかを年間5回の定期テストで判断する。	普段の授業に取り組む姿勢や提出物(ノート・課題プリント等)の内容、出欠席の状況などを総合的に判断し評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	第1編 現代の政治 第1章 民主主義の基本原則と日本国憲法 ①政治と法の機能 ②人権保障と法の支配 ③議会制民主主義と世界の政治体制 ④日本国憲法の基本原則
	5	【中間考査】
	6	⑤平和主義と自衛隊 ⑥基本的人権の保障と新しい人権 ⑦国会の組織と立法 【期末考査】
第2学期	7	⑧内閣の機構と行政 ⑨裁判所の機能と司法制度
	8	⑩地方自治制度と住民の権利 【中間考査】
	9	⑪政党政治と選挙制度 ⑫民主政治における世論の役割
第3学期	10	第2章 現代の国際政治と日本
	11	①国際社会と国際法 【期末考査】
	12	②国際連合の役割と組織 ③国際政治の動向 ④国際紛争と難民問題 ⑤国際平和と日本の役割 演習問題 【期末考査】
	1	演習問題
	2	
	3	

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学 I	1	普通 コース	4	数学科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
改訂新数学 I / ニューファースト改訂新数学 I	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	基礎的・基本的な知識・数学的技能を身につける。 数学的な思考力・表現力を育て、学ぶ意欲を高める。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期に中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	課題・ノート等の提出物、日常の取り組み姿勢等を総合的に判断し、点数化することで平常点とする。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	1章 数と式 1節 整式 【中間考査】
	5 6	2節 実数 3節 方程式と不等式 【期末考査】
第2学期	7 8 9 10	2章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ 2節 2次関数の値の変化 【中間考査】
	11 12	3章 図形と計量 1節 鋭角の三角比 2節 三角比の応用 【期末考査】
第3学期	1 2 3	4章 集合と論証 1節 集合と論証 5章 データの分析 1節 データの分析 【期末考査】

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学 I	1	進学 コース	4	数学

使 用 教 科 書 等	出 版 社
改訂版 新編数学 I / 3TRIAL数学 I	数研出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な概念、公式を十分に理解させる。 ・ 模試や入試に対応できる学力の基礎を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	課題の出来具合やノート等の提出物、日常の学習態度により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第 1 学期	4 5	▽ 数と式(1) (展開 因数分解 根号を含む式の計算 2次方程式 指数法則) 【中間考査】
	5 6	▽ 数と式(2) (1次不等式 絶対値を含む方程式・不等式 集合 逆・裏・対偶 必要条件・十分条件 命題と証明) 【期末考査】
第 2 学期	7 10	▽ 2次関数 (2次関数のグラフ 平行移動・対称移動 最大・最小 2次関数の決定 2次関数のグラフと x 軸の位置関係 2次不等式 解の分離) 【中間考査】
	1 11	▽ 図形と計量 (三角比 三角比の相互関係 三角比の拡張 正弦定理 余弦定理 三角形の面積 三角形の内接円と面積 円に内接する四角形の面積) 【期末考査】
第 3 学期	1 2	▽ データの分析 (平均値 中央値 分散 四分位数 箱ひげ図 標準偏差 相関係数) ▽ 数学 I の復習
	1 3	【期末考査】

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学A	1	進学 コース	2	数学

使 用 教 科 書 等	出 版 社
改訂版新編数学A／改訂版3TRIAL数学A	数研出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な概念、公式を十分に理解させる。 ・ 模試や入試に対応できる学力の基礎を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	課題の出来具合やノート等の提出物、日常の学習態度により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ～ 5	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 【中間考査】
	5 ～ 6	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 3. 順列 4. 組合せ 【期末考査】
第2学期	7 ～ 10	第1章 場合の数と確率 第2節 確率 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 【中間考査】
	10 ～ 11	第2章 図形の性質 第2節 空間図形 第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 【期末考査】
第3学期	1 ～ 2	第3章 整数の性質 第2節 ユークリッドの互除法
	2 ～ 3	第3章 整数の性質 第3節 整数の性質の活用 【期末考査】

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学 I	1	特進 コース	4	数学科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
数学 I 改訂版／アドバンスプラス改訂版数学I+A／Focus Gold数学I+A	啓林館

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な概念、公式を十分に理解させる。 ・問題集で計算力、応用力を高める。 ・模試や入試に対応できる学力を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的な内容の理解度を確認する。また、問題集や参考書にある応用的な内容への取り組みとその理解度を確認する。各学期ごとに中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の授業態度や課題の出来具合、ノート提出により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第 1 学期	4 5	第1章 数と式 第1節 整式 第2節 実数 【中間考査】
	5 6	第1章 数と式 第3節 方程式と不等式 第2章 2次関数 第1節 関数とグラフ 第2節 2次関数の最大・最小 第3節 2次関数と方程式・不等式 【期末考査】
第 2 学期	7 8 9 10	第3章 図形と計量 第1節 鋭角の三角比 第2節 三角比の拡張 第3節 正弦定理と余弦定理 【中間考査】
	10 11 12	第3章 図形と計量 第4節 図形の計量 【期末考査】
第 3 学期	1 2 3	第4章 集合と命題 第1節 集合と命題 第5章 データの分析 第1節 データの整理と分析 第2節 データの相関 【期末考査】
	2 3	

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学A	1	特進 コース	2	数学

使 用 教 科 書 等	出 版 社
数学A改訂版／アドバンスプラス改訂版数学I+A／Focus Gold数学I+A	啓林館

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な概念、公式を十分に理解させる。 問題集で計算力、応用力を高める。 模試や入試に対応できる学力を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的な内容の理解度を確認する。また、問題集や参考書にある応用的な内容への取り組みとその理解度を確認する。各学期ごとに中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の授業態度や小テストの出来具合、課題提出により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5 5	序章 集合 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1. 集合と要素の個数 【中間考査】
	5 5 6	第1節 場合の数 2. 場合の数 3. 和の法則 4. 積の法則 第2節 順列・組合せ 1. 順列 2. いろいろな順列 3. 組合せ 4. 同じものを含む順列 第3節 確率とその基本性質 1. 事象と確率 2. 確率の基本性質 第4節 いろいろな確率 1. 独立な試行 2. 反復試行 3. 条件付き確率 【期末考査】
第2学期	7 5 1 0	第2章 整数の性質 第1節 約数と倍数 1. 自然数の範囲での約数と倍数 2. 最大公約数と最小公倍数 3. 整数の除法と余りによる分類 第2節 互除法と不定方程式 1. 最大公約数と互除法 2. 不定方程式 【中間考査】
	1 0 5 1 1	第3節 整数の性質の活用 1. 分数と小数 2. n進法 第3章 図形の性質 第1節 三角形の性質 1. 直線と角 2. 三角形の重心・外心・内心・垂心 3. チェバの定理とメネラウスの定理 第2節 円の性質 1. 円周角の定理とその逆 2. 円に内接・外接する四角形 【期末考査】
第3学期	1 2 5 1	第2節 3. 接線と限のなす角 4. 方べきの定理 5. 2つの円の位置関係 第3節 作図 1. 作図 第4節 空間図形 1. 平面と直線 2. 多面体 【中間考査】
	2 5 3	1年間の復習 【期末考査】

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
物理基礎	1	普通科 コース	2	理科

使用教科書等	出版社
高等学校 改訂 新物理基礎	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ科学的な見方や考え方を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。ただし、3学期は期末考査のみ実施する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物の出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	I章 力と運動 1節 物体の運動 1. 速さと等速直線運動 2. 変位と速度 3. 速度の合成と相対速度 4. 加速度 5. 等加速度直線運動 6. 重力加速度と自由落下 7. 鉛直投げおろし・鉛直投げ上げ 8. 水平投射・斜方投射 【中間考査】 2節 力と運動の法則 1. 力と質量 2. いろいろな力 3. 力の合成・分解と力のつり合い 4. 慣性の法則 5. 力と質量と加速度の関係 6. 運動の第2法則 7. 作用・反作用の法則 8. 摩擦力 9. 運動方程式の利用(1) 10. 運動方程式の利用(2)
	5 7	【期末考査】
第2学期	7 10	II章 エネルギー 1節 仕事と力学的エネルギー 1. 力がする仕事 2. 仕事の原理と仕事率 3. 運動エネルギー 4. 位置エネルギー 5. 力学的エネルギー保存の法則 6. いろいろな運動と力学的エネルギー 【中間考査】 2節 熱とエネルギー 1. 温度と熱運動 2. 熱と熱平衡 3. 熱と仕事 4. エネルギーの変換と保存
	10 12	III章 波動 1節 波の性質 1. 波と振動 2. 波の表し方 3. 波の重ね合わせ 4. 定常波 5. 波の反射 2節 音波 1. 音の速さと3要素 2. 波としての音の性質 3. 弦の固有振動 4. 気柱の固有振動 【期末考査】
第3学期	1 3	IV章 電気 1節 電荷と電流 1. 電荷 2. 電流と電気抵抗 3. 物質と電気抵抗 4. 直流回路 5. 電力と電力量 2節 電流と磁場 1. 磁場 2. 交流の発生と利用 3. 電磁波 3節 エネルギーとその利用 1. 太陽エネルギーの利用 2. 原子力エネルギー 【期末考査】

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
生物基礎	1	普通 コース	2	理科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
高等学校 生物基礎	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	生物や生物現象への興味・関心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育むとともに生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。(第3学期は期末考査のみ実施)	日頃の出席状況や学習に取り組む姿勢、ノートや副教材、課題等の提出物によって総合的に評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	探究活動 顕微鏡およびマイクロメーターの使い方 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 【中間考査】 2. 細胞とエネルギー
	5 7	第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝現象と遺伝子 2. 遺伝情報の複製と分配 【期末考査】
第2学期	8 10	3. 遺伝情報とタンパク質の合成 第3章 生物の体内環境 1. 体液とその働き 2. 生体防御 【中間考査】
	10 12	3. 体内環境の維持のしくみ 第4章 バイオームの多様性と分布 1. 生物の多様性とバイオーム 2. バイオームの形成過程 3. バイオームとその分布 【期末考査】
第3学期	1 2	第5章 生態系とその保全 1. 生態系 2. 生態系のバランスと保全 3. 生態系の保全 【期末考査】
	3	まとめ

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
物理基礎	1	進学 コース	2	理科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
高等学校 改訂版 物理基礎	数研出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ科学的な見方や考え方を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。ただし、3学期は期末考査のみ実施する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物の出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動 【中間考査】
	5 6 7	第2章 運動の法則 1. 力とそのはたらき 2. 力のつりあい 3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力 【期末考査】
第2学期	7 8	第3章 仕事と力学的エネルギー 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギーの保存
	10 11 12	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 1. 熱と熱量 2. 熱と物質の状態 3. 熱と仕事 4. 不可逆変化と熱機関 【中間考査】 第3編 波 第1章 波の性質 1. 波と媒質の運動 2. 波の伝わり方 第2章 音 1. 音の性質 2. 発音体の振動と共振・共鳴 【期末考査】
第3学期	1 2	第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 1. 電気の性質 2. 電流の電気抵抗 3. 電気とエネルギー 第2章 磁場と交流 1. 電流と磁場 2. 交流と電磁波
	3	第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用 1. エネルギーの移り変わり 2. エネルギー資源と発電 第2章 物理学が開く世界 1. 摩擦をコントロールする 2. エネルギーを有効利用する 3. 見えないものを見る 【期末考査】

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
生物基礎	1	進学 コース	2	理科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
高等学校 生物基礎	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	生物や生物現象への興味・関心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育むとともに生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。(第3学期は期末考査のみ実施)	日頃の出席状況や学習に取り組む姿勢、ノートや副教材、課題等の提出物によって総合的に評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	探究活動 顕微鏡およびマイクロメーターの使い方 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 【中間考査】 2. 細胞とエネルギー
	5 7	第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝現象と遺伝子 2. 遺伝情報の複製と分配 【期末考査】
第2学期	8 10	3. 遺伝情報とタンパク質の合成 第3章 生物の体内環境 1. 体液とその働き 2. 生体防御 【中間考査】
	10 12	3. 体内環境の維持のしくみ 第4章 バイオームの多様性と分布 1. 生物の多様性とバイオーム 2. バイオームの形成過程 3. バイオームとその分布 【期末考査】
第3学期	1 2	第5章 生態系とその保全 1. 生態系 2. 生態系のバランスと保全 3. 生態系の保全 【期末考査】
	3	まとめ

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
物理基礎	1	特進 コース	2	理科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
高等学校 改訂版 物理基礎	数研出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ科学的な見方や考え方を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。ただし、3学期は期末考査のみ実施する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物の出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動 【中間考査】
	5 6 7	第2章 運動の法則 1. 力とそのはたらき 2. 力のつりあい 3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力 【期末考査】
第2学期	7 8	第3章 仕事と力学的エネルギー 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギーの保存
	9 10 11	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 1. 熱と熱量 2. 熱と物質の状態 3. 熱と仕事 4. 不可逆変化と熱機関 【中間考査】 第3編 波 第1章 波の性質 1. 波と媒質の運動 2. 波の伝わり方
第3学期	1 2	第2章 音 1. 音の性質 2. 発音体の振動と共振・共鳴 【期末考査】
	3	第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 1. 電気の性質 2. 電流の電気抵抗 3. 電気とエネルギー 第2章 磁場と交流 1. 電流と磁場 2. 交流と電磁波 第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用 1. エネルギーの移り変わり 2. エネルギー資源と発電 第2章 物理学が開く世界 1. 摩擦をコントロールする 2. エネルギーを有効利用する 3. 見えないものを見る 【期末考査】

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
生物基礎	1	特進 コース	2	理科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
高等学校 生物基礎	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	生物や生物現象への関心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の出席状況や学習に取り組む姿勢、課題等の提出物によって総合的に評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	第1章 生物の特徴 顕微鏡の取り扱い方
	5	1 生物の多様性と共通性
	5	【中間考査】
	5	2 細胞とエネルギー
	5	第2章 遺伝子とその働き
	6	1 遺伝現象と遺伝子 2 遺伝情報の複製と分配
第2学期	7	【期末考査】
	5	3 遺伝情報とタンパク質の合成
	9	第3章 生物の体内環境
	10	1 体液とその働き 2 生体防御
	5	【中間考査】
	11	3 体内環境の維持のしくみ
第3学期	1	第4章 バイオームの多様性と分布
	5	1 生物の多様性とバイオーム 2 バイオームの形成過程
	2	【期末考査】
	3	3 バイオームとその分布
第3学期	5	第5章 生態系とその保全
	2	1 生態系 2 生態系のバランスと保全
	3	【期末考査】 (3 生態系の保全)

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	1学年(男)	普通コース	2	保健体育科

使用教科書等	出版社
Active SPports 2017 [総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<p>各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。</p> <p>公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。</p>
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。 3学期は中間考査を実施	計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト①・集団行動
	6	◇高校生体操 ●実技試験
第2学期	7	◇体づくり運動 ◇スポーツテスト② ◇サッカー パス&コントロール ドリブル シュート ●実技試験
	11	◇陸上競技 ハードル走 砲丸投げ ●実技試験
第3学期	12	◇バレーボール パス(オーバーハンド・アンダーハンド) レシーブ・スパイク ●実技試験
	3	◇体育理論 ◆期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	1学年(女)	普通コース	2	保健体育科

使用教科書等	出版社
Active SPports 2017 [総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<p>各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。</p> <p>公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。</p>
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。 3学期は中間考査を実施	計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト①・集団行動
	6	◇高校生体操 ●実技試験
第2学期	7	◇体づくり運動 ◇スポーツテスト② ◇陸上競技 ハードル走 砲丸投げ ●実技試験
	11	◇バレーボール パス(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス) サーブ・スパイク ゲーム ●実技試験
第3学期	1	◇バスケットボール ドリブルシュート ゲーム ●実技試験
	3	◇体育理論 ◆期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	1学年(男)	進学コース	2	保健体育科

使用教科書等	出版社
Active SPports 2017 [総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<p>各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。</p> <p>公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。</p>
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。 3学期は中間考査を実施	計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト①・集団行動
	6	◇高校生体操 ●実技試験
第2学期	7	◇体づくり運動 ◇スポーツテスト② ◇サッカー パス&コントロール ドリブル シュート ●実技試験
	11	◇陸上競技 ハードル走 砲丸投げ ●実技試験
第3学期	12	◇バレーボール パス(オーバーハンド・アンダーハンド) レシーブ・スパイク ●実技試験
	3	◇体育理論 ◆期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	1学年(女)	進学コース	2	保健体育科

使用教科書等	出版社
Active SPports 2017 [総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<p>各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。</p> <p>公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。</p>
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。 3学期は中間考査を実施	計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト①・集団行動
	6	◇高校生体操 ●実技試験
第2学期	7	◇体づくり運動 ◇スポーツテスト② ◇陸上競技 ハードル走 砲丸投げ ●実技試験
	11	◇ハンドボール パス・シュート(ステップ・ジャンプ) 対人練習(2対2・3対3) ●実技試験
第3学期	12	◇バスケットボール ドリブルシュート ゲーム ●実技試験
	2	◇体育理論 ◆期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	1学年(男)	特進 コース	2	保健体育科

使用教科書等	出版社
Active SPports 2017 [総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<p>各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。</p> <p>公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。</p>
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。 3学期は中間考査を実施	計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト① ・ 集団行動
	6	◇高校生体操 ●実技試験
第2学期	7	◇スポーツテスト② ・ 体づくり運動 ◇サッカー パス(インサイドキック ・ インステップキック) パスからのシュート ・ ドリブルからのシュート 対人(1対1 ・ 2対2) ・ ゲーム形式 ●実技試験
	11	◇陸上競技 走り幅跳び ・ フォームづくり ・ 測定 砲丸投げ ・ フォームづくり ・ 測定 ●実技試験
第3学期	12	◇バレーボール パス(オーバーハンドパス ・ アンダーハンドパス) パス(対面パス ・ 直上パス) サーブ ・ アタック ゲーム形式 ●実技試験
	3	◇体育理論 ◆期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	1学年(女)	特進 コース	2	保健体育科

使用教科書等	出版社
Active SPports 2017 [総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<p>各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。</p> <p>公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。</p>
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。 3学期は中間考査を実施	計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト①・集団行動
	6	◇高校生体操 ●実技試験
第2学期	7	◇体づくり運動 ◇スポーツテスト② ◇陸上競技 ハードル走 砲丸投げ ●実技試験
	11	◇ハンドボール パス・シュート(ステップ・ジャンプ) 対人練習(2対2・3対3) ●実技試験
第3学期	12	◇バスケットボール ドリブルシュート ゲーム ●実技試験
	2	◇体育理論 ◆期末考査

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コ ー ス		
体 育	1学年	普通・進学・特進(男)、看護科(男・女)	1	保健体育科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
Active SPports 2017 [総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<p>各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。</p> <p>公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。</p>
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	<p>自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。</p> <p>体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。</p>	<p>運動の意義や必要性を理解する。</p> <p>運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。</p> <p>3学期は中間考査を実施</p>	<p>計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。</p> <p>健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。</p>
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇空手道 オリエンテーション 礼法(立礼・座礼) 補助運動・柔軟運動 基本動作(足挙げ) 手技(攻撃) ●実技試験
	6	
第2学期	7	◇空手道 手技(攻撃技・受け技) 足技(蹴り技)
	11	組手(約束組手・自由組手) ●実技試験
第3学期	12	◇空手道 護身術 形(米子北高オリジナル) ●実技試験
	3	◇武道(空手道)理論 ◆期末考査

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コ ー ス		
体 育	1学年	普通・進学・特進(女)、看護(男・女) コース	1	保健体育科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
Active SPports 2017[総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<p>各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。</p> <p>公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。ダンスを好きになる。</p>
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。 3学期は中間考査を実施	計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇ダンス オリエンテーション フォークダンス 作品作り(中間発表)
	6	●実技試験
第2学期	7	◇ダンス 作品発表
	11	民踊 ●実技試験 現代的なリズムのダンス ●実技試験
第3学期	12	◇ダンス ダンスいろいろ ●実技試験
	3	◇ダンス理論 ◆期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
保健	1学年	普通コース	2	保健体育科

使用教科書等	出版社
現代高等保健体育	大修館出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深める。 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	定期考査	平常点
趣旨・基準	1学期 … 中間考査 ・ 期末考査 2学期 … 中間考査 ・ 期末考査 3学期 … 期末考査（課題提出も考える） 以上を実施し、その得点で評価する。	出席状況や学習態度により評価する。 課題や提出物の内容により評価する。
評価割合	80 %	20 %

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇現代社会と健康 私たちの健康のすがた 健康のとらえ方 ◆中間考査 健康と意志決定・行動選択 健康に関する環境づくり
	6	生活習慣病とその予防 食事と健康 ◆期末考査
第2学期	7	運動と健康 休養・睡眠と健康 喫煙と健康 飲酒と健康 ◆中間考査
	11	薬物乱用と健康 現代の感染症 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防 ◆期末考査
第3学期	12	◇生涯を通じる健康 思春期と健康 性意識と性行動の選択 結婚生活と健康 妊娠・出産と健康 家族計画と人工妊娠中絶
	3	◆期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
保健	1学年	進学・特進 コース	2	保健体育科

使用教科書等	出版社
現代高等保健体育	大修館出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深める。 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	定期考査	平常点
趣旨・基準	1学期 … 中間考査 ・ 期末考査 2学期 … 中間考査 ・ 期末考査 3学期 … 期末考査（課題提出も考える） 以上を実施し、その得点で評価する。	出席状況や学習態度により評価する。 課題や提出物の内容により評価する。
評価割合	80 %	20 %

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇現代社会と健康 私たちの健康のすがた 健康のとらえ方 ◆中間考査 健康と意志決定・行動選択 健康に関する環境づくり
	6	生活習慣病とその予防 食事と健康 ◆期末考査
第2学期	7	運動と健康 休養・睡眠と健康 喫煙と健康 飲酒と健康 ◆中間考査
	11	薬物乱用と健康 現代の感染症 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防 ◆期末考査
第3学期	12	◇生涯を通じる健康 思春期と健康 性意識と性行動の選択 結婚生活と健康 妊娠・出産と健康 家族計画と人工妊娠中絶
	2	◆期末考査

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
音楽 I	1	普・進・特・看護 コース	2	芸術

使用教科書等	出版社
改訂版 高校生の音楽1	音楽之友社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	平常点(関心・意欲・態度)	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
趣旨・基準	・音楽文化を尊重し、興味関心を高めているか。 ・意欲的主体的に楽曲演奏に取り組んでいるか。	・音楽のよさや美しさを感じ取り、創造的に表現の工夫をしているか。 ・実技テストの内容 ・演奏発表の内容	・創造的な音楽表現の技能を身につけているか。 ・実技テストの内容 ・演奏発表の内容	・それぞれの音楽の特徴に対し理解を深め鑑賞できているか。 ・レポートの内容 ・演奏発表の内容
評価割合	20%	30%	30%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5 6	歌唱・・・校歌等、季節を歌う 器楽・・・リコーダー基礎 鑑賞・・・ミュージカルについて 楽典・・・音名・音程①
	7 8 9 10 11	歌唱・・・季節、世界を歌う 器楽・・・リコーダーソロ 鑑賞・・・ジャズについて 楽典・・・音程②
第3学期	1 2 3	歌唱・・・モーツァルトを歌う。 器楽・・・リコーダー2重奏 鑑賞・・・モーツァルトについて

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
美術 I	1	普通 コース	2	芸術

使 用 教 科 書 等	出 版 社
高校美術1	日本文教出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	造形的な創造活動を通して美的体験を豊かにし、創造することの楽しさ、完成したときの喜びを感じさせる。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
趣旨・基準	①美術上の幅広いジャンルに対して興味関心を高めているか。②主体的に制作に取り組んでいるか。③制作活動への参加の仕方や態度。	①絵画、デザイン等の特質知覚し、美術の良さ、美しさを個性豊かに表現の工夫をしているか。②実技、作品内容で評価。	①イメージを個性豊かに表現できているか。②実技、作品内容で評価。	①多様な美術や美術文化に対する理解を深め鑑賞できているか。②レポートの内容。美術作品の良さや美しさを味わっているか。
評価割合	20%	30%	30%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	ミーティング デザイン…………レタリング
	5 7	絵画…………人物画 着彩 絵画…………クロッキー
第2学期	7 10	デザイン…………グラデーション 絵画…………クロッキー 絵画…………風景画 着彩
	11 12	絵画…………点描画 絵画…………クロッキー
第3学期	1 1	工芸…………打ち出し銅版 絵画…………クロッキー
	2 3	工芸…………モザイク コースター 絵画…………クロッキー

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
美術 I	1	進学・特進・看護 コース	2	芸術

使 用 教 科 書 等	出 版 社
高校美術1	日本文教出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	造形的な創造活動を通して美的体験を豊かにし、創造することの楽しさ、完成したときの喜びを感じさせる。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
趣旨・基準	①美術上の幅広いジャンルに対して興味関心を高めているか。②主体的に制作に取り組んでいるか。③制作活動への参加の仕方や態度。	①絵画、デザイン等の特質知覚し、美術の良さ、美しさを個性豊かに表現の工夫をしているか。②実技、作品内容で評価。	①イメージを個性豊かに表現できているか。②実技、作品内容で評価。	①多様な美術や美術文化に対する理解を深め鑑賞できているか。②レポートの内容。美術作品の良さや美しさを味わっているか。
評価割合	20%	30%	30%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	ミーティング デザイン…………レタリング
	5 7	デザイン…………グラデーション 絵画…………人物画 着彩 絵画…………クロッキー
第2学期	7 10	絵画…………クロッキー 絵画…………風景画 着彩 デザイン…………立体造形(紙)
	11 12	絵画…………点描画 工芸…………ステンドグラス 絵画…………クロッキー
第3学期	1 3	工芸…………砂絵 絵画…………クロッキー
	2 3	工芸…………篆刻(印) 篆刻(彫刻) 絵画…………クロッキー

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
書道 I	1	普通、進学、特進 コース	2	芸術科

使用教科書等	出版社
書道 I	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	書道の諸活動を通して、書道を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書道文化についての理解を深め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を高める。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
趣旨・基準	・書道文化尊重するとともに、個性を生かして意欲的、主体的に取り組んでいるか。 ・関心意欲は作品の添削と提出状況。態度は出席状況、マナーで評価	・書道の良さ、美しさを個性豊かに表現の工夫をしているか。 ・感受性や表現は提出した作品で評価	・創造的な表現をするための技能を身につけているか。 ・古典の作品に対して特徴をとらえた技能で表現できていたか。作品によって評価	・書道を幅広く理解し、そのよさや美しさを深く味わう。 ・作者の作品を理解しているか。授業中の発言等によって評価
評価割合	20%	30%	30%	20%

3. 学習計画等

	月	学 習 内 容
第1学期	4	書写から芸術書道への導入 表現と用具・用材(文房四宝について) 姿勢・執筆法の基本(永字八法・臨書について) 漢字の書(楷書) 1. 九成宮醴泉銘(欧陽詢)
	5	漢字の書(楷書) 1. 孔子廟堂碑(虞世南)
	6	2. 雁塔聖教序(褚遂良) 3. 自書告身(顔真卿) 4. 牛橛造像記
第2学期	7	漢字の書(行書)
	8	1. 蘭亭序(王羲之) 2. 文化祭作品創作
	9	硬筆の学習
	10 11	検定試験理論・実技練習 競書大会作品
第3学期	12	書初め作品
	1	仮名の書
	2	1. 仮名の単体 2. 変体仮名・連綿
	3	漢字仮名交じりの書創作 (色紙書き)

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
コミュニケーション英語 I	1	普通 コース	3	英語

使 用 教 科 書 等	出 版 社
VISTA English Communication I	三省堂

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度を養う。 ②表現能力(話す・読む・書く)を養う。 ③易しい英語の文章を理解する能力を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、原則として中間・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。 試験問題は、授業で学習した内容を中心に出题する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物、小テストのでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ~ 5	Lesson 1 Kerama Blue Lesson 2 Cool Japan
	5 ~ 7	Lesson 3 Mexican Dishes Lesson 4 The Olympics
第2学期	7 ~ 10	Lesson 5 Baobabs in Mdagascar Lesson 6 Toothbrushing in Edo Lesson 7 Machu Picchu
	10 ~ 12	Lesson 8 Motala and Landmines Lesson 9 Dick Bruna Lesson 10 Tsujii, the Great Pianist
第3学期	1 ~ 2	Lesson 11 Ideas from Nature Lesson 12 Steve Jobs

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
英語表現 I	1	普通 コース	2	英語科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
Grove English Expression I	文英堂

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ②言語材料を正しく理解する。 ③情報や自分の考えを適切に表現する。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	原則として、各学期に中間・期末考査を実施し、総合的な英語力を確認し評価する。	授業中の小テスト、プリント・ノート・課題等の提出物、授業中の取り組み姿勢などを総合的に評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	Lesson1 新しい学年が始まります
	5 6	Lesson2 親友を紹介します Lesson3 起きなさい Lesson4 よい週末を
第2学期	7 10	Lesson5 メールで連絡することができます Lesson6 どんな町に住んでいますか Lesson7 夏が来ました
	1 2	Lesson8 何か変わったことがありましたか Lesson9 何を読んでいますか Lesson10 お昼を食べましょう
第3学期	1 3	Lesson11 スポーツは好きですか Lesson12 ペットを飼っていますか
		Lesson13 趣味は何ですか Lesson14 旅行は楽しい

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
コミュニケーション英語 I	1	進学 コース	4	英語

使 用 教 科 書 等	出 版 社
Grove English Communication I	文英堂

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度を養う。 ②情報や考えを的確に理解する。 ③自分の意見や考えを適切に表現する。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、原則として中間・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。 試験問題は、授業で学習した内容を中心に出题する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物、小テストのでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ~ 5	Lesson 1 Omotenashi: The spirit of Japan
	5 ~ 7	Lesson 1 Omotenashi: The spirit of Japan Lesson 2 Why is that so? Lesson 3 The Bento Goes International
第2学期	7 ~ 10	Lesson 4 Owen and Mzee: An Amazing Friendship Lesson 5 The Impossible Is Possible
	10 ~ 12	Lesson 6 Eric Carle: How He Creates His Art Lesson 7 The Netherlands-Living with Water
第3学期	1 2 ~ 2	Lesson 8 Collective Intelligence Lesson 9 10 Billion

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
英語表現 I	1	進学 コース	2	英語科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
Dual Scope English Expression I	啓林館

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけると共に、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。また練習問題の繰り返しによって英文法の基礎を築く。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	定期考査において、各単元の文法項目を良く習得・理解し十分表現活動に活かすことができているかを確認し、評価する。	授業中のリスニングテスト、ノート・課題・プリント等の提出物、発表やコミュニケーション活動の状況を総合的に評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4月・5月	Lesson1 英語の型で表現する Lesson2 さまざまな「時」を表現する
	5月・6月	Lesson2 さまざまな「時」を表現する Lesson3 助動詞を使って表現する
	7月・9月	Lesson4 受動態を使って表現する Lesson5 不定詞を使って表現する
第2学期	11月・12月	Lesson6 動名詞を使って表現する Lesson7 分詞を使って表現する
	1月	Lesson8 比較を使って表現する Lesson9 関係詞を使って表現する
第3学期	2月	Lesson10 仮定を使って表現する

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
コミュニケーション英語 I	1	特進 コース	4	英語

使 用 教 科 書 等	出 版 社
Grove English Communication I	文英堂

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度を養う。 ②情報や考えを的確に理解する。 ③自分の意見や考えを適切に表現する。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、原則として中間・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。試験問題は、授業で学習した内容を中心に出题する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物、小テストのでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ~ 5	Lesson 1 <i>Omotenashi</i>
	5 ~ 7	Lesson 2 Why is that so? Lesson 3 The Bento Goes International
第2学期	7 ~ 10	Lesson 4 Owen and Mzee: An Amazing Friendship Lesson 5 The Impossible Is Possible
	10 ~ 12	Lesson 6 Eric Carle: How He Creates His Art Lesson 7 The Netherlands-Living with Water
第3学期	1 2 ~ 2	Lesson 8 Collective Intelligence Lesson 9 10 Billion

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
英語表現 I	1	特進 コース	2	英語科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
Dual Scope English Expression I	啓林館

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけると共に、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。また練習問題の繰り返しによって英文法の基礎を築く。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	定期考査において、各単元の文法項目を良く習得・理解し十分表現活動に活かすことができているかを確認し、評価する。	授業中のリスニングテスト、ノート・課題・プリント等の提出物、発表やコミュニケーション活動の状況を総合的に評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4月・5月	Lesson1 英語の型で表現する Lesson2 さまざまな「時」を表現する
	5月・6月	Lesson2 さまざまな「時」を表現する Lesson3 助動詞を使って表現する
	7月・9月	Lesson4 受動態を使って表現する Lesson5 不定詞を使って表現する
第2学期	11月・12月	Lesson6 動名詞を使って表現する Lesson7 分詞を使って表現する
	1月	Lesson8 比較を使って表現する Lesson9 関係詞を使って表現する
第3学期	2月	Lesson10 仮定を使って表現する

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
家庭基礎	1	普通 コース	2	家庭科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
家庭基礎 自立・共生・創造	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	1. 家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に修得する。2. 知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。3. 生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	思考・判断	技術・表現	知識・理解
趣旨・基準	家族・福祉・衣食住・消費生活などについて関心を持ち、意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。授業態度で評価。	家族・福祉・衣食住・消費生活などについて見直し、課題を見つけ、その理解を目指して思考を深めている。提出物で評価。	家族・福祉・衣食住・消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身につけている。実習で評価。	家族・福祉・衣食住・消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身につけている。定期考査で評価。
評価割合	約20%	約30%	約10%	約40%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第1章 自分らしい人生をつくる 青年期の課題 目標を持って生きる
	5 6 7	第5章 食生活をつくる 食生活について考える 食事と栄養・食品 調理の基礎 【期末考査】
	7 8 9 10	食生活の安全と消費 生涯の健康を見通した食事計画 調理の基礎 これからの食生活
第2学期	10 11 12	第8章 経済生活を営む 国民経済・国際経済と家庭の経済 消費行動と意志決定 【期末考査】
	1 2 3	第4章 共に生き共に支える 社会保障の考え方 第3章 高齢社会を生きる これからの高齢社会 第7章 住生活をつくる 住生活について考える 第9章 生活を設計する 生涯を見通す 【期末考査】

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
家庭基礎	1	進学 コース	2	家庭科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
家庭基礎 自立・共生・創造	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を修得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	思考・判断	技術・表現	知識・理解
趣旨・基準	家族・福祉・衣食住・消費生活などについて関心を持ち、意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。授業態度で評価。	家族・福祉・衣食住・消費生活などについて見直し、課題を見つけ、その理解を目指して思考を深めている。提出物で評価。	家族・福祉・衣食住・消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身につけている。実習で評価。	家族・福祉・衣食住・消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身につけている。定期考査で評価。
評価割合	約20%	約25%	約15%	約40%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第5章 食生活を作る 食生活について考える 食事と栄養・食品 食生活の安全と衛生
	5 7	生涯の健康・食生活 調理の基礎 調理実習 期末考査
	7 10	第2章 子どもと共に育つ 子どもの育つ力を知る 親として共に育つ
第2学期	10 11	第6章 衣生活をつくる 被服の役割を考える 期末考査
	12 1	第7章 住生活をつくる 住生活について考える 住生活の計画と選択
第3学期	2 3	第8章 経済生活を営む 職業生活を設計する 期末考査

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
家庭基礎	1	特進 コース	2	家庭科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
家庭基礎 自立・共生・創造	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を修得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	思考・判断	技術・表現	知識・理解
趣旨・基準	家族・福祉・衣食住・消費生活などについて関心を持ち、意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。授業態度で評価。	家族・福祉・衣食住・消費生活などについて見直し、課題を見つけ、その理解を目指して思考を深めている。提出物で評価。	家族・福祉・衣食住・消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身につけている。実習で評価。	家族・福祉・衣食住・消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身につけている。定期考査で評価。
評価割合	約20%	約25%	約15%	約40%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第5章 食生活を作る 食生活について考える 食事と栄養・食品 食生活の安全と衛生
	5 7	生涯の健康・食生活 調理の基礎 調理実習 期末考査
	7 10	第2章 子どもと共に育つ 子どもの育つ力を知る 親として共に育つ
第2学期	10 11 12	第6章 衣生活を作る 被服の役割を考える 期末考査
	1 2 3	第7章 住生活をつくる 住生活について考える 住生活の計画と選択 第8章 経済生活を営む 職業生活を設計する 期末考査

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
社会と情報	1	普通・進学・特進 コース	2	情報・職業科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
新編 社会と情報	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	情報を収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を習得する。
---------	---------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
趣旨・基準	情報や情報社会に関心をもち、身のまわりの問題を解決するために進んで情報および情報技術を活用しようとする。授業態度、出席状況で評価をする。	情報活用の方法を工夫したり、改善したりするとともに、情報モラルをふまえた適切な判断をする。授業ノート、課題レポート等により評価をする。	情報の収集・選択・処理を適切に行うとともに、情報を目的に応じて表現する。課題作品、発表により評価をする。	情報および情報技術を活用するための知識を身につけ、情報の意義や役割を理解している。各学期毎に実施する定期考査で評価をする。
評価割合	約20%	約20%	約30%	約30%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	序章 第1節 私たちの生活と情報 第2節 情報社会と私たちのかかわり ワープロソフトでの文書の作成 (ワープロソフトの基礎と応用)
	5 7	第3章 情報社会の課題と情報モラル 第1節 情報化が社会にもたらす利点と問題点 第2節 情報セキュリティの確保 第3節 情報社会における法と個人の責任 【期末考査】
第2学期	8 10	第1章 情報の活用と表現 第1節 情報のデジタル化 第2節 情報の表現と伝達 表計算ソフトによる情報の集計と分析 表計算ソフトの応用
	1 11 12	第2章 情報通信ネットワークとコミュニケーション 第1節 コミュニケーション手段の発達 第2節 情報通信ネットワークのしくみ 第3節 情報通信ネットワークの活用とコミュニケーション 【期末考査】
第3学期	1	第3章 望ましい情報社会の構築 第1節 社会における情報システム 第2節 情報システムと人間 第3節 情報社会における問題の解決 プレゼンテーションソフトの利用
	2 3	【期末考査】